学校だより

磨光

令和６年９月26日（木）
三豊市立本山小学校
No.11
発行者：中田　祐二

「ぼくが見てまわったものはぜんぶ、ぼくのもの。地球はまるごと、ぼくのものさ」
　ムーミンに登場するスナフキンの言葉です。
　24日、25日と、６年生が奈良、京都、滋賀を訪れました。２日間、子どもたちが見てまわったものは、ぜんぶ子どもたちのもの。まるごと大事に抱え込んだ修学旅行の思い出の一部を紹介します。

修学旅行記

今回の修学旅行には、珍しいことがたくさんありました。
法隆寺は驚くほど参拝客が少なく、案内役の方も「奇跡のような日だ」とおっしゃっていました。全員が奈良の大仏の鼻の穴をくぐり、清水寺で音羽の滝の水を飲むことができたのも、滅多にないことだそうです。また、ちょうど縁日が開かれている日に北野天満宮を参拝できたこと、1,300 台中４台しかないという四つ葉のクローバーのタクシーに二度も遭遇したこと、学校から携行した救急箱を一度も開かずにすんだこと、さらには、清水寺で外国人カップルがプロポーズする瞬間に立ち会えたことなど、何度も修学旅行を経験している教員や旅行会社の方でも驚くようなことに、立て続けに遭遇しました。

【大仏を見上げる】

無用の用。一見意味がないように見えるけれども、本当は重要なものであるということだそうです。
座禅体験の折に、妙心寺の副住職さんがお話ししてくださいました。例えば、コップに水がいっぱい入っていると、そこに新たな飲み物を入れることはできません。コップは空（無）であることに意味があります。
　うまく見せようとか、勝ってやろう、あるいは失敗をしないようにしようなどという邪心があると、どこかに力みや歪みが出てきます。書でいえば筆をとった瞬間に無心になるということ。音楽でいえば聴衆を前にしても演奏の世界に没頭しているということ。座禅体験では、大人よりも、欲のない子どもたちの方が、この境地に容易に立つことができていたのかもしれません。

【妙心寺退蔵院の座禅体験】

思い出は道中にもあります。名神高速道路を走っているとき、バスガイドさんが子どもたちに、「なぜ『めいしん』というか分かりますか？」と尋ねたところ、ある子が、「迷わず進むから」と答えました。バスガイドさんは思わず「いいねえ！」と感嘆の声をもらしました。もともとの意味である「名古屋と神戸をつないでいるから」よりも、ずっと味わいと夢のある発想です。ぜひ６年生の子どもたちも、ここぞという時には「迷進高速道路」のごとく進んでほしいと願っています。

学校に帰るバスの中、担任選曲の音楽をみんなで歌っていました。西野カナさんの「トリセツ」だったり、中島みゆきさんの「糸」だったり。「この子たちも、大人になったら、これらの歌詞をかみしめるような、そんな日が来るんだろうな」と思いながら、子どもたちの歌を聴いていました。
　でも、おそらく最も早くに歌詞をしみじみと感じるのは、この日も歌っていた秦基博さんのこの歌ではないでしょうか。

> **そばにいること　なにげないこの瞬間も　忘れはしないよ**
> **旅立ちの日　手を振るとき　笑顔でいられるように**
> **（秦基博、「ひまわりの約束」より）**

　３月、卒業式。その時に、この子どもたちは修学旅行をどのように思い出しているのでしょう。